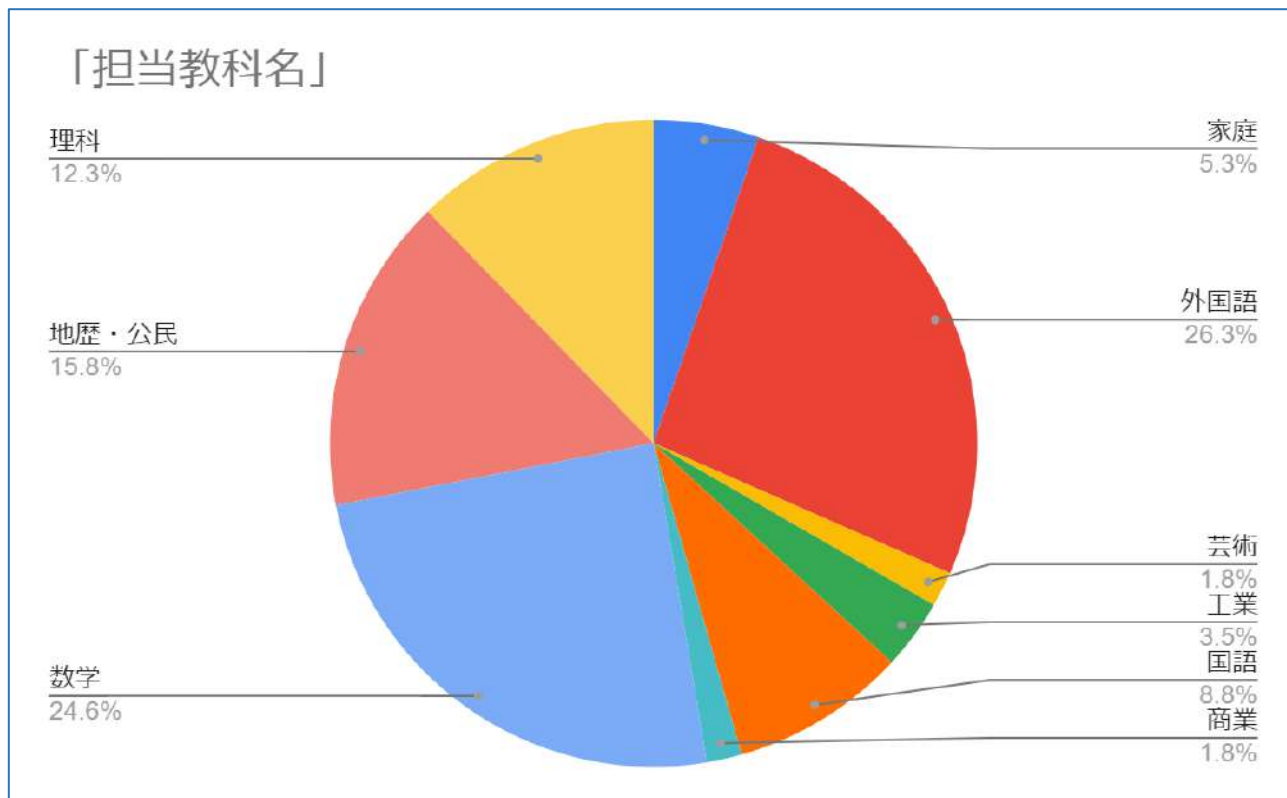


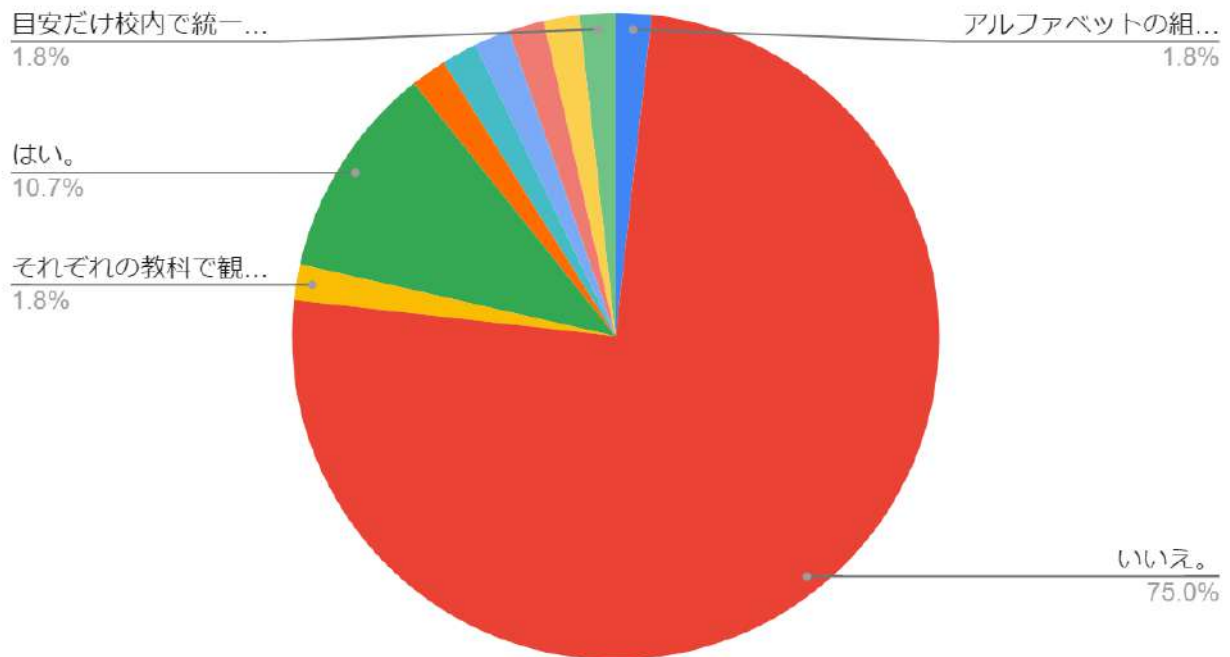
「観点別評価アンケート」集計結果

2022年7月8日集計

集計人数 58人(40校)



「1. 3観点の割合を校内で統一していますか。」

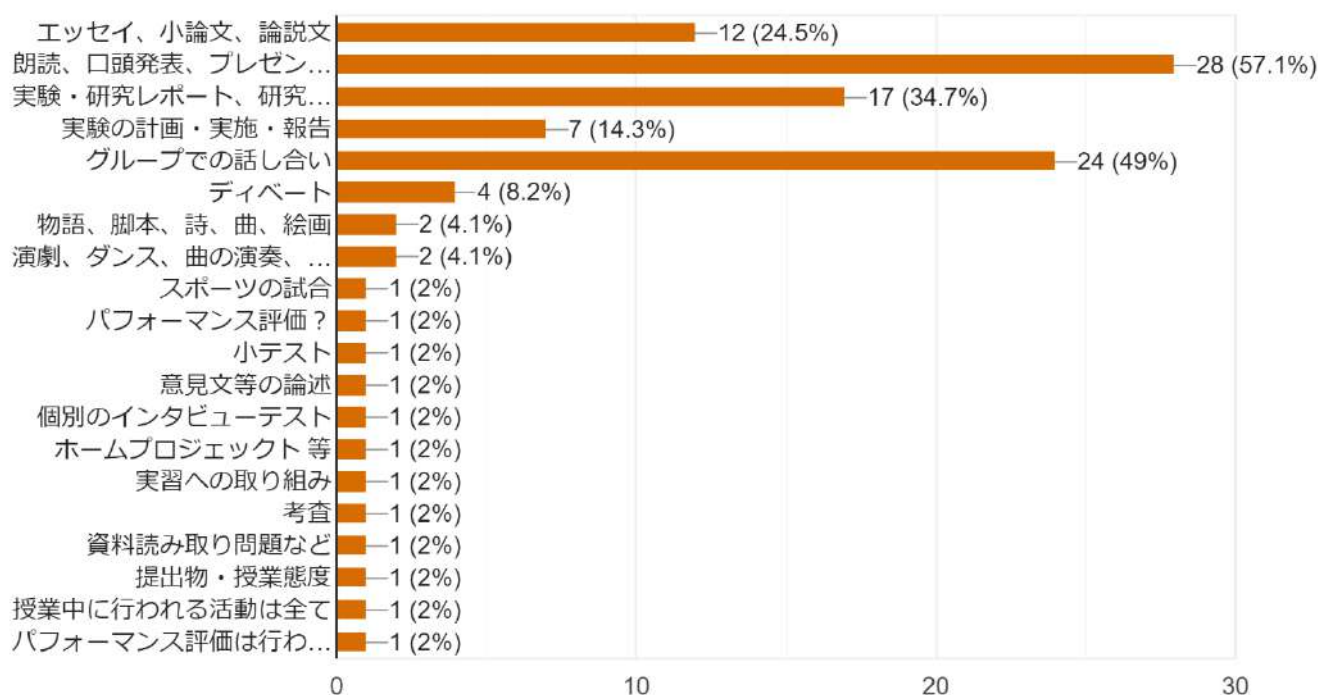


【その他】

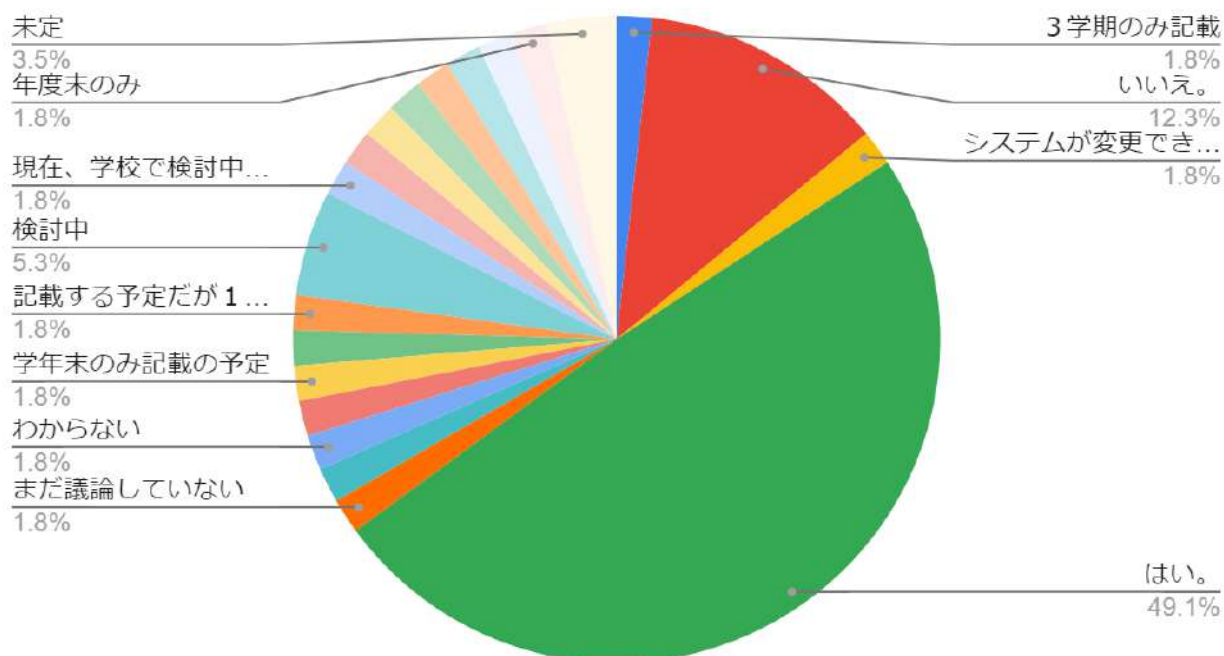
- ・ 英語科 1 学年担当者で確認
- ・ 検討中
- ・ それぞれの教科で観点を判断する方法や判断材料は異なるので統一できないがで、教科別に割合が極端に異なるのも問題となると思われる。できる限り近づけるように教科同士で基準は共有していると思われる
- ・ 全体で統一ではなく、いくつかの教科ごとで統一
- ・ アルファベットの組み合わせと 5 評の換算表を作成
- ・ 一応統一しているが、教科により流動的に運用することになっている
- ・ まだ決めていない
- ・ 目安だけ校内で統一し、具体的な割合は教科ごとに教科の特性に合わせて設定している

2. パフォーマンス評価の方法について。(複数選択可能)

49件の回答



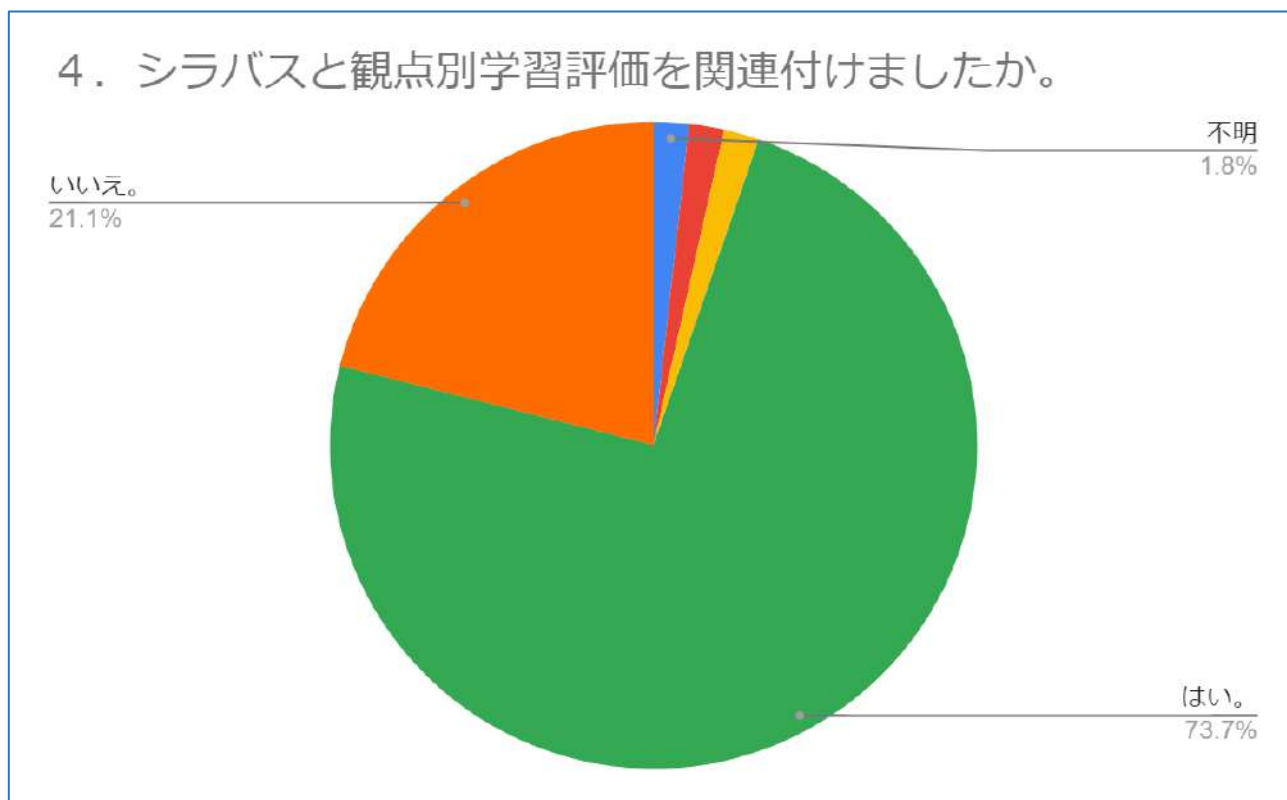
3. 3観点の学習状況 (A・B・C) を通知表に記載しますか。



【その他】

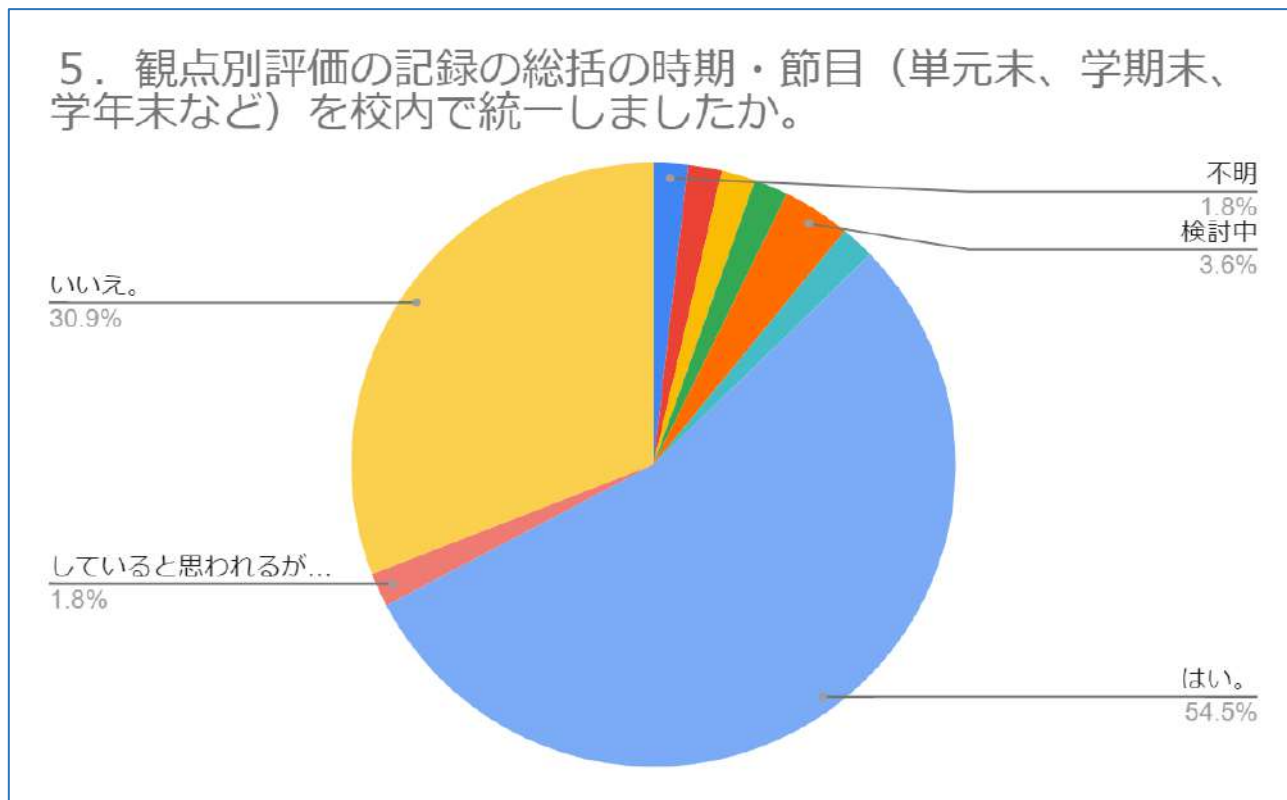
- ・ 新しい通知表ができていない。できていたとしても知らされていない

- ・ 検討中（５）
- ・ 前期は記載なし。後期は検討中
- ・ 記載しないと思われるが、今後検討する。
- ・ 未定（４）
- ・ 現時点ではしないが今後はわからない。自分は分からない
- ・ まだ議論していない
- ・ システムが変更できないため、通知票に記載ができない
- ・ 学年末のみ記載の予定
- ・ 年度末のみ（２）
- ・ ３学期のみ記載
- ・ 記載する予定だが１学期は難しい。
- ・ わからないが、現段階で校内で統一したものはない。



【その他】

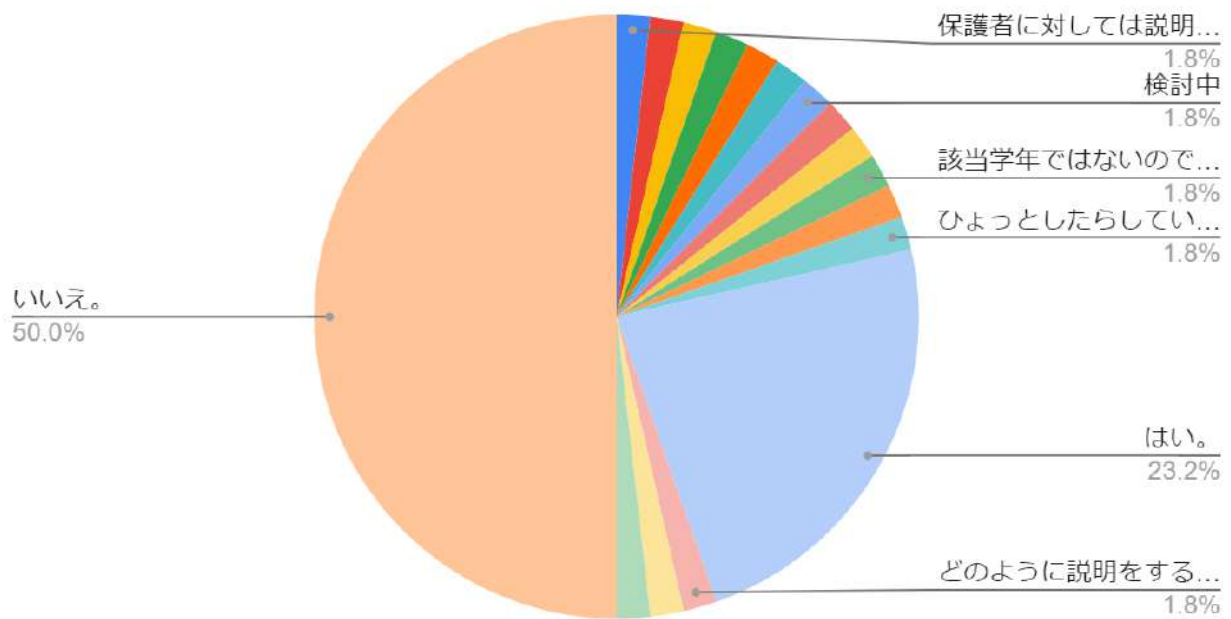
- ・ 検討中
- ・ 単元により評価の観点の分野を示しているが、観点評価の方法と合わせるのが難しい場合もある
- ・ 不明



【その他】

- ・ 検討中（3）
- ・ していると思われるが把握できていない
- ・ 不明
- ・ 年度末までに、各教科の記録の総括をする。
- ・ 現時点では学年末。学期末はその準備段階。
- ・ まだ議論していない

6. 観点別評価の評価基準について保護者、生徒への説明はしましたか。



【その他】

- ・ 保護者に対しては説明していない
- ・ 生徒へ説明済み
- ・ 生徒にはしたが、保護者にはできていない
- ・ 生徒にのみ最初の授業で説明
- ・ 各科目一斉に紙ベースで生徒に説明を行った。
- ・ 資料で閲覧できる状態になっています。
- ・ 検討中（2）
- ・ 何らかの形で説明する予定ですが、現在、検討中です。
- ・ どのように説明をするか検討中
- ・ 観点別評価の割合と評価材料については説明したが、細かな評価基準については説明していない。
- ・ シラバスに記載
- ・ シラバスには掲載してあるが、説明はしていない。

- ・ 該当学年ではないのでわからない。
- ・ ひょっとしたらしているかもしれないが把握していない

7. 3 観点目の「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法はどのようにしていますか。

1. 授業態度、授業中の活動、取り組みの様子、実習態度
2. 提出物、小テスト、課題、レポート、プリント、ノート、振り返りシート、自己評価シート、
家庭学習割合、定期考査
3. 演習、実習、パフォーマンステスト、ペアグループワーク、プレゼン、
4. 出席状況
5. 基本は B 評価

- アンケート等を参考にしたり、課題を計画的にできているか等を判断基準としている
- 授業態度、提出物、小テスト、プチ課題、追試への取り組みなど
- ノートや授業態度
- ノートを「普通に」書いているかどうか

- 今学期は授業態度や提出レポートで評価しています。
- 各教科で決定。授業態度、授業での活動の様子、提出物などが考えられる
- 各科で検討中
- 振り返りシート、提出物、出席状況
- 自己振り返りシートなどの活用により自己評価（内面の評価）をさせ、評価に加える。
- 課題やノートの提出状況、授業態度
- 活動観察やレポート等の提出。
- 課題（宿題）の取り組み状況、授業中の取り組み状況、授業中に実施する小テストなどを教科担当者が総合的に判断する
- 不明だが各教科ごと設定
- 「家庭総合」（必履修科目）：演習・実習 50%、講義・授業の学習活動 40%、ノート・レポート 10%、合計 100%
- 提出物状況、授業中の取り組み、出欠席状況をもとに評価
- 授業ノート、課題への取り組み
- 活動への取り組む様子やプリントへの記入度合い
- 各教科の裁量
- 授業態度、発言、実習態度、提出課題の内容や完成度
- 課題提出、授業態度
- 家庭学習の割合等
- 英文を通して得られた内容とグループで話し合った内容を基に、自分の考えを深めアップデートできたかを振り返りから評価する。また、与えられた課題（授業中・週末課題）に粘り強く取り組んでいるかを提出状況や提出内容で評価する。また、自

己の学習を調整しているかを評価する。

- 授業の様子、ノートの内容、プリント等の記述
- 小テスト、定期考査、パフォーマンステスト、提出物・授業への参加度（観察）で評価する。
- 授業への取り組み、授業計画表（単元ごと）、自己評価シート（単元ごと）
- 提出物やレポートの提出・取り組み方などから評価を行う予定。
- 主に毎時間の評価と定期考査時に自己評価を記述させる。 授業へ取り組みれば基本 B 寝ている、質問に答えない等の状況が有れば C
- 提出物を点数化。（1 学期は出欠状況も含めたが、科会で不用とされたため、2 学期以降は提出物のみ。授業態度については、今のところ点数化は考えていない）
- 授業振り返りシートの記入の内容や実験実習に取り組む態度を評価する。
- 授業態度・提出物
- 発表、自己評価、提出物、出席
- レポートや提出物のコメントおよび自己評価
- 課題への取り組みの姿勢
- 実験・実習に取り組む姿勢、レポートの記述など
- 出欠の状況、課題内容の充実と提出状況、授業中の発言や取り組み状況
- 実験操作やレポートの取り組み
- 授業への出席、授業態度、提出物の提出状況、パフォーマンス評価
- 未定（これから話し合うところ）
- 授業中のペア・グループワーク、発表やプレゼンをベースに評価する
- 授業での観察・生徒による自己評価シートなどを総合する

- リフレクションシート(振り返り用紙)に、授業での学びや気づきを記入させている。google フォームを使い、生徒が入力できるタイミングで記入するようにしている。
- テスト問題、提出物
- 授業態度、提出物
- 小テスト、提出課題の提出状況
- 私は授業中のレポートと考査での問題の得点から評価しています
- 科で協議してこれから決めます
- 出欠席
- 自主的に学習させた範囲をテストで出題させたり、授業内でのグループワークやペアワークの取り組みの状況などを見て文章評価するなど。
- 出席状況や授業態度および提出物
- 基本は B で評価をする。
- 提出物など
- 普段の授業プリントの提出状況、内容等
- 実験・観察・レポートなどを元に総合的に判断する。
- ABC でつけるものだと思っている。
- 課題の提出状況
- 自己評価

8. 観点別評価についての課題、困難と思われることをお書きください。

【特徴的な記述】

1. 成績、評価業務の煩雑さと負担増。
2. 生徒の内面評価の困難さ。
3. 評価の公平性、客観性の課題。教科担当者間の評価基準の統一の課題。
4. 大学入試等進路におけるデータ活用の困難さ。
5. 評価方法の説明の困難さ。生徒、保護者への説明の困難さ。
6. 10段階評点、5段階評定とABC換算作成の困難さ。
7. 評価方法にあった授業内容への切り替えの課題。
8. 3観点の割合の課題。教科ごとの特殊性、単元ごとの内容による割合の課題。
9. 観点別評価統一基準の作成するため教職員間の検討の時間と理解の問題。

- 教員団の意識改革・目線合わせ
- 業務が煩雑になっている

- 「主体的に学習に取り組む態度」などという内面を測定することは不可能。また、判断する側である教員の「好み」が、多かれ少なかれ評価の判断を左右してしまう。さらに、このような「個々の教員の主観的な評価」は生徒に忠誠心競争を促すことにもつながりかねない。非常に危険。
- 主観が入る部分があり完全な説明になるか不安がある。
- "本校は各学年300人以上いるので、パフォーマンステストの実施が困難である。生徒間の相互評価を取り入れたとしても、公平に評価できるのか、疑問が残る。また、「主体的に学習に取り組む態度」を図ることは大変難しい。
- 絶対評価であるのはわかるが、大学入試を考えたときに、どれだけその評価を利用できるのか、また、生徒が自分の力を客観的に図るのに使えるのか疑問である。
- 手のかかる作業であり、教員の仕事をさらに大変にしていると感じる。
- 前年度に具体的な評価方法や手順を決定していないこと。
- 前年度の取りまとめ役から引継ぎもなく、何をどこから進めればいいのかもわからない状態であること。
- 学校・教科・科目ごとに評価割合・方法が異なるため、兼務される先生との連携の難しさ、成績入力の手間、生徒の混乱ができるだけ解消できるよう考えたい。またパフォーマンスの評価においてどれだけルーブリックの精度を上げて評価者によって多少の差が出てしまう可能性は、公平性という点からは見過ごせないため、パフォーマンス評価自体が評価のための評価ではなく、生徒の力を伸ばすための一つの道具として使えるよう工夫したい。
- 1学期の成績入力後、更に改善点等を校内で詰めていく方向である。
- まだ、教科や校内で検討中の部分が多く、具体的なイメージが持てていない状態です。
- 観点別評価を活用することがあるのか？また、観点別の評価をするということは、それぞれの観点のうち一部の観点の高さに注目することはあるのか？特になければ今まで通りの全体的な評価でよいのではないのか？メリットなどが分かりにくいことが課題であり、観点別評価自体が、授業担当者の成績評価業務について負担が増大しているところが困難であると思われる。
- これで評価の説明責任を果たせるのか不明。何をしても今までと変わらず、数年後には新たな評価方法が提示されると想

像する。若い職員達に頑張ってください、と、メールを送る教員も多いと思われる。

- 授業担当者（教科担任）の評価軸の差：評価基準や観点を統一しても担当者によって差が生じる。
- 英語の場合は4技能5領域についてそれぞれ3観点...と言われたので、それを真面目にやろうとすると一人につき15個のアルファベットを考えないといけない。単純に大変。
- まだまだこれからですが、生徒の成長に繋がるような実践をしていきたい。その形を研究していく。
- 最終的に評価の付け方(A B C)は感覚的なものになると思われるが、それを教員同士がどのように感性のすり合わせを行うのが課題だと思います。
- 主体的に取り組む態度の評価が困難
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、説明を求められた場合、回答が難しいのではと感じる。
- 客観的に評価できているのかどうか不安に思うことがある
- 仕事量が増える。
- 同一科目を複数の先生で担当する場合、評価基準の統一が難しい。
- 観点別のウエイトや生徒への開示の仕方、タイミング等の決定。
- 3 観点の重みが統一できない。生徒へは観点別評価から授業改善へ学校として繋がられない。授業ごとの評価を全ての科目で行なっているか心配。観点別評価に対して、管理職が主導的に動いてくれず、内規を整備する際に苦労した。新しい評価への職員の反発が怖い 授業改善をしてくれない(評価から繋がられない)
- まず手間がかかる。考査問題を「知識・技能」部分と「思考力・判断力・表現力」部分に分け、点数も分けて記録、さらに評価、成績会議用の資料の形にするまでかなりの時間がかかった。課題としては、評価（A A A～C C C）と10段階評定との関連。（自分の担当分については関連づけなかった）
- 3 観点の学習状況（A・B・C）を5段階に換算する表を作成するか、作成しないかで検討しているが、他校の状況を知りたい。

- 集計が以前より複雑になる
- 学習に取り組む態度をひとクラス、ひと講座単位で、ひとりひとりについて客観的に評価することは、現実問題不可能である。
知識技能と思考判断を切り離しての評価についても、思考がなければ、本当の意味での知識に結びつかず、知識がある程度なければ適切な判断もできないなど観点を分けること自体も机上の論理でしかないように思われる。
- 客観性
- 管理職研修において、県は「理想はすべて A 評価をつけてもらいたい」と要望しながら、毎年生徒を採用してもらっている企業との関係について「（生徒の評価をつけるにあたって）企業との信頼関係を崩すようなことはしないでもらいたい」と言っていたらしい。企業との信頼関係を崩さないようにするためにはこれまで通りの基準で生徒の評価を付けざるを得ず、県の要望を実現することは困難である。県は無理難題を現場に要求しているとは思えない。「すべて A 評価」を要望するなら、県は企業に対して観点別評価の趣旨およびこれまで調査書に記載してきた評価と観点別評価はまったく異なることを説明すべきである。
- （もちろん、今までもやっていなければいけないことかもしれないが）課題を評価するにあたって細かい点数化が大変。テストの採点や課題の採点、評価に時間がかかる。テスト問題についても、どの観点で評価する問題なのかの明確化が必要になってくるので、テスト作成にも今まで以上に時間がかかる。
- 一つの科目を複数の教員で担当している場合、評価の基準がそろえにくいこと。
- 10 評と ABC の観点別によって、評価が非常に複雑となること。
- 従来の評定と併記するため、従来の評定と観点別評価との相関が生まれる。既に観点別と従来の評定との相関を決めた学校もあると聞く（例：3 観点とも「A」なら 10 段階評定の 9 以上、など）。相関があるならそもそも同じ評価が 2 種類記載されるだけのことであり、現場の負担が増しただけ。
- 評価そのもののノウハウはもちろんだが、評価方法に合った授業実践に切り替える必要があるが、簡単ではないと感じている。
- 必ず評価者の主観が入ってしまうので、公正な評価になりにくい。また大学入試でどの程度この評価を参考にするのかまだ

明言されていないことが問題。

- 「主体的に学習に取り組む態度」の測り方が難しい。皆に良い評価をつけるようでは、評価をする意味がないとも考えられる。
- 3 観点の評価の割合を校内で統一しようとしても、教科・単元によって 3 観点の重要度が異なる場合がある。
- A,B,C と観点別に評価することによって、結果として相対的に評価してしまうおそれがある。
- どの教科も同じだと思いますが、そもそも明確に 3 つの観点に分けて評価すること自体不自然だと思います。「知識・技能」を用いて「思考・判断・表現」をしようと思うので、明確に分けて評価するのが難しく、各学校での裁量になってしまい、進路に影響が出てしまうことが心配です。「主体的に学習に取り組む態度」も各校や各教員の判断になってしまえばあまり意味がないうえに生徒にも不利益なのではないでしょうか。また、C 判定などがついたときの生徒や保護者への説明も難しいです。
- 生徒はそれを望んでいるのか、はなはだ疑問
- A、B、C の観点から評定にする点に無理がある。大学の推薦等で評定平均を求められる以上 A,B,C の組み合わせから評定が決まることは生徒にとって平等に評定がついている状態とは言えない。また、文科省から出ている主体的な態度の評価例では、実験レポート等で評価 A が付く生徒は実際にはほとんどいない。C は基本的に改善しなければならないので実際には全員 B のような判定がつきそう。そんな評価ならやらない方がいい。この評価は教師も授業を振り返るためのものだと文科省は言うが、今までも十分やってきたことだし、主体的な態度の観点をちゃんとつけようとするならば評価しやすい授業を作ることになり、生徒主体の授業ではなくなってしまう気がしている。
- わからないことだらけで何が課題なのかもわからないです
- 今現在、大至急で観点別評価の仕組みづくりを校内で整備している最中であり、間に合うかどうかは課題であると感じている。
- 従来の成績処理に加えて観点別評価を行うことで、さらに教員の負担が大きくなってしまふことが課題だと感じます。
- 観点別評価を実施することについて、そもそも根本的な部分を理解していない先生がいる。つまり、観点別評価は実情に合わない（やっているほど余裕がない）から実施できないと考えている。

- 評価をするのであれば基準を作らなければならないが、じっくり吟味する時間もほとんど取れず、適切な評価になっているか疑問が残る。複数名で同じ授業を担当していればなおさらだが、基準は統一できているのか。
- また、評価したものはゆくゆくは推薦などで進路に利用されるかと思われるが、このような状態で利用してよいものか。
- 上級学校は「観点別評価」を理解されているのか。
- このことに限らずやるが多すぎてじっくり検討できていないのが現状。
- 校内での統一基準の作成、観点別評価方法の妥当性
- 思考・判断・表現の評価の仕方
- 客観性と公平性の担保
- 評価をするための時間が増え、教師、生徒共に負担になっているのではないかと感じている。

ご回答いただいたみなさまには、貴重な情報をご提供いただきお礼申し上げます。

長野県教育文化会議事務局